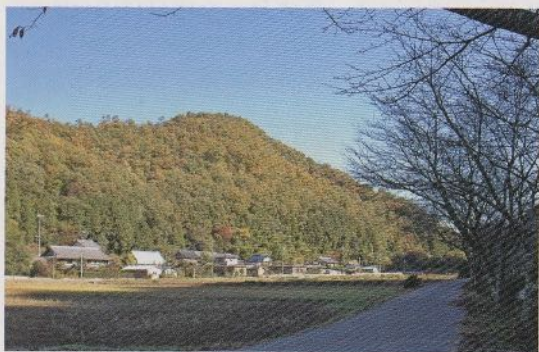


牛牧のはなし

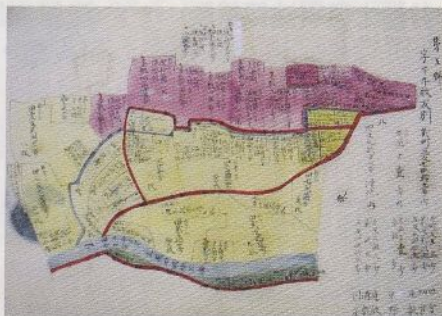
伊深町に「牛牧(うしまき)」という地名があります。古くは「牛巻」とも書いたそうです。

その昔、正眼寺を開いた関山慧玄(かんざんえげん)さんは、現在の伊深町で修行されました。ここでの生活は、昼は牛の放牧や村人の農業の手伝いをし、夜は薬師谷で修行をするというものでした。牛を使って田をおこしたり、まきや炭の運搬をしたりしました。夏の草刈りや秋の収穫、冬のしば作りなど何でも手伝い、村人とも大変親しく暮らしていました。隣の関市にある長谷寺にお参りに行くときも、牛を連れて歩いて出掛けたため、その姿は大変評判になっていました。

「牛牧」という地名はここから来ているといわれています。現在は、「上牛牧」と「下牛牧」の二つの地区があります。



▲「現在の下牛牧地区」



▲「加茂郡伊深村字切絵図のうち下牛牧」